

① 団体の概要

1	団体名	
	(記入者)	

↓ 該当欄にチェックをいれてください。

2	福祉有償運送を始めてからの年数を教えてください	① 3年以内
		② 3年～5年以内
		③ 5年～10年以内
		④ 10年以上

3	福祉有償運送に使用している車両について	① 車イス積載スロープ車 (軽四 台、普通車 台)
		② 車イス積載リフト車 (軽四 台、普通車 台)
		③ リフトアップシート車 (軽四 台、普通車 台)
		④ セダン車輛 (軽四 台、普通車 台)

4	福祉有償運送の運転者の人数について	人
---	-------------------	---

5	使用車両台数の変化の傾向	① 増えた
		② 減った
		③ 変わらない

6	運行回数の変化の傾向	① 増えた
		② 減った
		③ 変わらない

7	運送収入の変化の傾向	① 増えた
		② 減った
		③ 変わらない

2022年度岡山県内福祉有償運送団体実態調査アンケート

8	福祉有償運送以外の主な事業を教えてください。	① 介護保険事業
		② 障害者総合支援事業
		③ 介護保険事業 + 障害者総合支援事業
		④ その他 ()
		⑤ なし

② 団体の持続可能性について

9	福祉有償運送の活動が続いている理由は何ですか。(複数回答可)	① 行政が運行経費を負担してくれるから
		② 団体や個人の寄付金あり
		③ 有償でできるから
		④ ドライバーが確保できているから
		⑤ 利用ニーズがあるから
		⑥ その他 ()

10	福祉有償運送の活動はこの先いつまでつづけていけるとお考えですか	① 10年以上
		② 5～10年
		③ 3～5年
		④ 1～2年
		⑤ やめようと思っている(理由:)

11	団体による運営方法の工夫が創出・発展の鍵になっているケースはなんですか(福祉有償運送の活動以外での事業や活動として)(複数回答可)	① 生活支援体制整備事業、家事援助等のたすけあい活動
		② 介護保険事業、高齢者福祉施設の運営
		③ ファミリーサポートセンターの運営
		④ 市町村から関連事業を受託
		⑤ 交流サロンの運営
		⑥ その他 ()

12	行政や社会福祉協議会との連携が創出・発展の鍵になっているケースはなんですか(複数回答可)	① 運営協議会への提出書類の作成、利用者の確認等
		② 送迎の依頼、利用者紹介、情報共有
		③ 行政が社会福祉協議会に運行委託し、市民が担い手になっている
		④ 市町村からの運営費の一部補助・赤字補填の補助
		⑤ 福祉有償運送の立ち上げ支援
		⑥ その他 ()

③ 利用登録者の受け入れ状況

13	福祉有償運送の利用者について	① 利用登録者の数（高齢者 人、障がい者 人、その他 人）
		② 実利用者の数（高齢者 人、障がい者 人、その他 人）
14	団体の事業所の利用者以外の方が福祉有償運送の利用ができますか。	① できる
		② できない
15	利用登録者の変化の傾向	① 増えた
		② 減った
		③ 変わらない
16	福祉有償運送を実施しているなかで、感じていることなどを教えてください。 (複数回答可)	① 人件費、燃料費、車両維持費の経費が厳しい
		② ニーズは増えているが人手不足や収支の事情等で対応が難しい
		③ 利用者の声が励みになっているので頑張れる。
		④ 福祉有償運送に補助金を出してほしい。
		⑤ 利用料を低価格に設定していても収入のない利用者には請求が難しい場合がある
		⑥ 更新登録の更新期間を3年から、5年に延長してほしい。
		⑦ 登録・更新の手続きを電子申請にしてほしい。
		⑧ その他（ ）
17	福祉有償運送利用者の現在の受入状況を教えてください	① 受け入れ可能である
		② 調整次第で受け入れ可能な場合もあるので問合せしてほしい
		③ 現在は受け入れが困難である
18	受け入れ可能な旅客の範囲 (複数回答可)	① (イ) 身体障害者福祉法第4条に規定する身体障害者
		② (ロ) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する精神障害者
		③ (ハ) 障害者の雇用の促進等に関する法律第2条第4号に規定する知的障害者
		④ (二) 介護保険法第19条第1項に規定する要介護認定を受けている者
		⑤ (ホ) 介護保険法第19条第2項に規定する要介護認定を受けている者
		⑥ (ヘ) 介護保険法施行規則第140条の62の4第2号(基本チェックリスト)に該当する者
		⑦ (ト) その他肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害その他の障害を有する者

④ その他

19	福祉有償運送に対する展望を聞かせてください。（複数回答可）	① 高齢者のニーズは今後増えていくので団体も増えていく。
		② 福祉有償運送のニーズはあるが持続が難しいので団体は減少する。
		③ 移動制約者の移動ニーズに対応した活動である為、地域住民、自治体の理解が必要
		④ 移動制約者に対する最適な外出支援として社会に認知してもらえる仕組みが必要。
		⑤ 超高齢化の到来で福祉有償運送への期待が広がる。
		⑥ 自動運転等の技術革新が進む中でも利用者に寄り添う外出支援として期待される。

⑤ 自由記入欄

20	福祉有償運送に関して思うことがあれば、 ご自由に意見をお書きください。 (関係機関への意見・提言等を含む)	
----	---	--